

脇町高ラグビー 90年祝う

来月、記念試合や教室

四国で初めて楕円球が弾んだ「ルーツ校」の県立脇町高(美馬市)のラグビー部が今年、創立90周年を迎え、7月6、7両日、記念行事が行われる。OBで、奈良県立御所実業高を全国屈指の強豪に育てた竹田寛行監督によるラグビー教室や地元3高との記念試合が予定されている。ワールドカップ日本大会の今年、OBたちはラグビータウン復活の夢を抱く。(浦一貫)



グラウンド前にある「四国ラグビー発祥の地」の前にそろったラグビー部員(美馬市の県立脇町高で)

四国発祥の地 100周年へ部誌も計画

脇町高の前身、旧制脇町中時代の1929年、東京高等師範学校(現・筑波大)を卒業したばかりの体育教師・長谷川茂雄氏(1907〜76年)がラグビーをもたらし、「グラウンドでけんかができるぞ」と柔道や相撲部員を勧誘したという。

34年に全国大会に初出場して以来、戦前は計6回出場した。41年に長谷川氏は大阪府立淀川工業学校(現・淀川工科高)に移ったが、脇町高近くの和菓子店主は戦後、ボールをかたどった「ラグビー饅頭」を発売、今も脇町名物だ。

OB会の発足は83年。31年ぶり10度目の出場を記念した。その後も正月には100人前後が集まりOB戦が行われ、現役チームへの「お年玉」を託すのが恒例だという。

記念行事は、高校近くの吉野川沿いにある河川敷グラウンドが主会場。6日午後1時からのラグビー教室は未経験者も歓迎。7日午前9時半からは今春の選抜大会準優勝の御所実が、吉野川(合同)、つるぎ、脇町各高と対戦する。

5歳上の兄にあこがれプレーする脇町高の新藤一樹主将(18)は「祖父より年上のOBから激励を受

け、歴史を感じる。選手は「だと感じる」と、敬意を表す。

OB会事務局長の澤田篤也さん(57)は「100周年に向けて、部誌制作も計画している。四国ラグビー発祥の地として、すそ野を広げたい」と話していた。

OB会の発足は83年。31年ぶり10度目の出場を記念した。その後も正月には100人前後が集まりOB戦が行われ、現役チームへの「お年玉」を託すのが恒例だという。

記念行事は、高校近くの吉野川沿いにある河川敷グラウンドが主会場。6日午後1時からのラグビー教室は未経験者も歓迎。7日午前9時半からは今春の選抜大会準優勝の御所実が、吉野川(合同)、つるぎ、脇町各高と対戦する。

5歳上の兄にあこがれプレーする脇町高の新藤一樹主将(18)は「祖父より年上のOBから激励を受